普　及　情　報

中山間地域での初夏どりキャベツの産地拡大

1　キャベツ1億円産品づくりをめざして

平成４年の農協合併に伴い、美方郡統一振興品目として「キャベツ１億円産品づくり」の取り組みが始まった。高原畑地の耕作放棄地や自己保全農地の増加、農家の営農意欲の減退等が出てきていたため「キャベツ１億円産品づくり」という大きく、具体的なアドバルーンを掲げた。

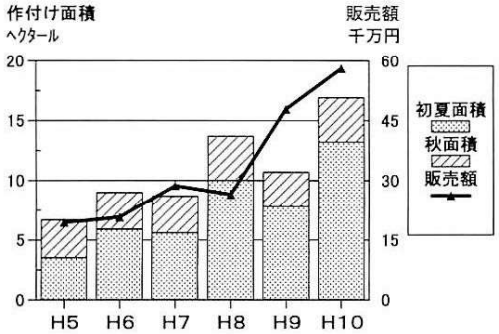
2　産地作りへの課題と取り組み

産地づくりのために以下の活動を中心に、郡全体での振興を図った。①生産者の組織化とモデル栽培者の育成②農協によるセル苗供給体制づくりと苗の越冬技術確立③定植機を導入し栽培管理の省力化と出稼ぎ者、畜産農家、サラリーマン農家でも取り組める作型の開発④販売先の統一による有利販売の実践⑤野菜部会等、関係機関の支援施策づくり

3　これまでの取り組み結果

(1) 生産者と生産組合の活性化

平成５年９月に兵庫みかたキャベツ生産組合が組織され、活発でしかも充実した組合活動を通し、年々生産者数、作付け面積・販売額も増加した。現在、生産者は85名（平成11年産）、作付け面積は20haとなっている。



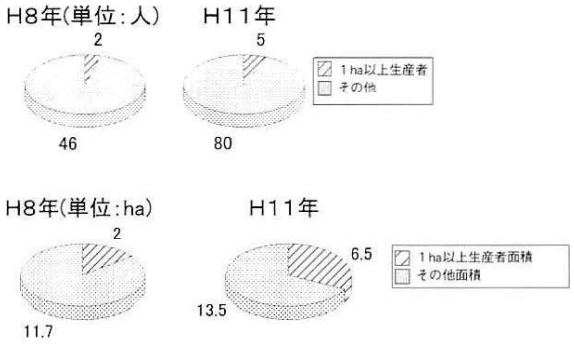
図．１　栽培面積と販売額の推移

(2) 栽培の機械化と省力化

農協が水稲育苗施設を利用して20haのセル苗を供給する体制を確立するとともに、定植機を5台導入し、栽培の省力化と軽作業化に大きく貢献した。

(3) 生産者個人の規模拡大（経営の柱づくり）

若い生産者の作付けが増加しており、しかも順調に規模拡大が進んでいる。年間２作型の合計作付け面積が１ha以上の生産者が５名となった。



図．２ 生産者の規模拡大状況

(4) 減農薬・無化学肥料栽培への取り組み

平成９年より減農薬・無化学肥料栽培に取り組んでおり、平成10年よりコープこうべへフードプランキャベツとして出荷を始めた（２ha、18名）。

(5) 特産品としてのキャベツが地域内で定着

キャベツ栽培は「儲かる」しかも「栽培が容易な品目」として、又特別な機械装備が不要で転作田を活かせる品目として地域に定着してきた。

4　今後の取り組みについて

今後の取り組みとして、①経営の柱として充実させるため、機械装備の充実と規模拡大を推進する②高品質産地としての評価を高めるため連作障害対策、減農薬・無化学肥料栽培の拡大を行う③地域とのつながりを深めるため、地域内への供給体制づくりを進める④生産者自身が楽しめる産地として、仲間づくりとさらに儲かる経営を進める。

藤澤　満彦（浜坂普及センター）

ひょうごの農業技術　No.104

平成11年７月１日（隔月刊）

１部 250 円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47－１１１７
兵庫県立北部農業技術センター（0796）74－１２３０
兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42－４８８０

11農 Ⓟ 1-021 A 4